

よい会社をつくろう。よい経営者になろう。よい経営環境をつくろう。

月刊

同友

10月号

2026
vol.723

P 03-06 特集

福岡地区インタビューシップの振り返り座談会
学校との関係づくり、
仕組み化すすめて広がる取り組みへ

P 07-09 21世紀型自立型企业づくり

おかげさまで思考
～一人ひとりの自己実現に貢献する～

おなか元気株式会社

後継者 白仁田 匡輝 氏(久留米支部)

MONTHLY COMMUNICATION MAGAZINE DOYU



福岡県中小企業家同友会
月刊同友の
バックナンバー



福岡県中小企業家同友会

学校との関係づくり、 仕組み化すすめて 広がる取り組みへ

参加者

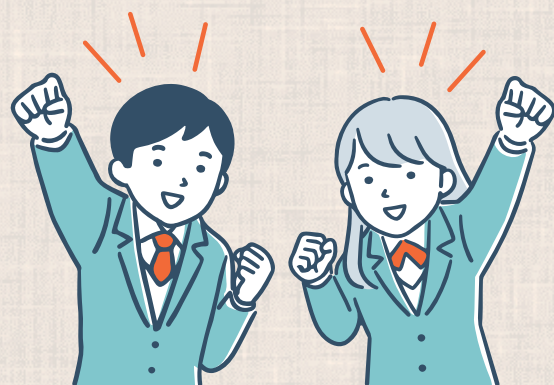
(株)マスプロ
増井 仁亮 氏 (福友和支部)

(株)ChouChou
阿部 弘美 氏 (南支部)

(株)レイオブホープ
石内 雅盛 氏 (筑紫支部)

(株)ChouChou
阿部 友紀 氏 (南支部)

司会／文・写真：広報情報委員会 南 史聡 (西支部)



福岡地区のインタビューシップ のスタート

南 まず、福岡地区でインタビューシップが始まった経緯から教えてください。

増井 私は今年度から地域づくりの幹事を務めることになったのですが、インタビューシップは北九州地区や県南地区ですでに取り組まれていて、「すごく良い取り組みだ」という情報が入っていました。そのため、福岡地区でもインタビューシップが良いものだという認識はありました。

2024年7月に中小企業魅力発信月間大勉強会が開催され、その時の

福岡地区会で昨年度から始まったインタビューシップ。一般的なインタビューシップのように、就職を前提に仕事を体験するのではなく、高校生が企業を訪れ、経営者や社員へのインタビューを通じて「働くとは何か」を考える取り組みです。福岡地区会で始まって2年。手探りで進めてきたからこそ、高校生だけでなく、受け入れる企業や社員にも大きな学びがあることが見えてきました。一方で、学校との連携や受入企業への周知など、継続に向けた課題も浮かび上がってきました。

今回は、インタビューシップを実行してきた福岡地区会地域づくり（福岡市）幹事長の増井仁亮さん（福友和支部）、福岡地区会副会長の石内雅盛さん（筑紫支部）、受け入れ企業代表として阿部弘美さん（南支部）、阿部友紀（南支部）さんに、これまでの2年間を振り返ってもらいました。

南 テーマがインタビューシップでした。同友会から各地区の教育委員会に案内を出したところ、福岡魁誠高校の先生が当日参加され、「うちでも実施を検討したい」という話になったそうです。福岡地区でも2025年度からインタビューシップの準備を始めることとなり、2025年5月に地区役員と事務局員が魁誠高校を訪問しました。そこで先生から「生徒の中から希望者を募り、今年の夏休み（7月下旬から8月上旬）に実施したい」と言われたのです。

増井 かなりタイトですね。正直なところ急でした。一般の会員さんには、まず「インタビューシッ

同友会 3つの目的

よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して、企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

よい経営者になろう

同友会は、中小企業家が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

今月の表紙

おなか元氣株式会社

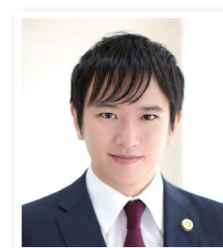
後継者 **白仁田 匡輝 氏** (久留米支部)



私が白仁田匡輝さんをご紹介します！

ほとめき法律事務所
所長

荻原 知明
(久留米支部)



白仁田さんは農業・飲食・福元氣」です。これはお父様が提唱する「人の健康の入り口は『おなか』（腸）であり、それを整えるのは微生物が豊かな土で育った本物の野菜だ」という前提のもと、農業・食・健康・環境を一体で捉える経営哲学です。そして、循環型農法の採用やA型・B型事業所を農園や飲食店と一体で動かすなど事業自体にも落とし込まれています。

是非「まんまる」を訪ねて、おなか元氣を身体で体感してください。そして彼を見かけたら「王子」と声をかけてあげてください。

白仁田さんといえば「おなか

現場からひとこと



久留米市六ツ門町にある居酒屋「まんまる」にお伺いしました。店内に入ると就労支援センターの方々が、開店に向けて熱心に清掃や仕込みに励む姿が印象的でした。

おなか元氣株式会社は市内で「体が喜ぶ」食事処を3店舗展開するほか、自社農園での無農薬野菜作りや福祉と連携した就労継続支援にも注力しています。「食」を通じて地域の健康と誰もが活躍できる社会を支える、グループ会社全体の温かい一体感と深いこだわりを実感した取材となりました。

撮影・文／同友会事務局 有馬 愛



頼まれたから仕方なく受け入れる、では
なかなか続きませんよね。
企業にも、この取り組みが自社にとって
どんな意味があるのかを伝えていく必要がありますね。

阿部 弘美 氏

南 高校生にはどんな変化があったように思いますか。
阿部（友） 昨年来た生徒さんの一人は、もともと保育士に興味を持っていました。インタビューシップを経験したことで、「保育士になりたい」という気持ちがより具体的になったそうです。今は進学したい短大も決めて、アルバイトをしながら進学に向けて準備していると聞きました。楽しいところだけではなく、大変なところも実際に見たうえで、それでも「やりたい」と思ってくれました。それは嬉しかったですね。

石内 この取り組みのポイントは、
南 一方で、課題もかなりありそうですね。
増井 山積みです（笑）。でも、そこは前向きにとらえています。
南 具体的にどういったところですか？
増井 まずはスケジュールですね。

就職先を探すのではなく
「働く意味」を知る

なく、社員教育にもなっているですね。
増井 私も受入企業の一社として、そこは感じています。高校生に会社を説明しようと思えば、「自分たちは何を大切に仕事をしているのか」を社員も考えないといけません。だから、受け入れる側にも意味があるんです。

最初から就職を意識させすぎないことだと思っんです。高校1年生なら、まだ特定の会社への就職を考える段階ではありません。だから「会社とは何か」「大人はなぜ働くのか」というところから聞けるんですよ。
阿部（弘） 「働くとは何か」を学ぶということですね。中小企業は毎年新卒を採用できるところばかりではありません。でも、高校生を受け入れて、自分たちの理念や仕事について若い人に説明することは、新入社員を教育するときと似た経験になります。
高校生のためにやっているように、実は企業づくりにもつながっています。そこはインタビューシップの大きな価値だと思います。

見えてきた課題

まずは福岡魁誠高校さんと、
もっと直接会ってしっかり話すことだと思います。
メールや電話だけではなく、
「今後どういう形にしていきたいのか」を一緒に考える。



増井 仁亮 氏

高校生に教えているつもりが社員が学んでいた
南 実際に受け入れた企業では、どんなことをされたのですか。
阿部（友） うちの保育園なので、高校生には実際に保育の現場に入ってもらいました。ただ、それだけではなくて、高校生が事前に考えてきた質問を職員の皆さんに答えてもらいます。今年来た生徒さんは、保育や食に興味を持っていたので、「働くうえで大切にしていることは何ですか」と保育士に聞いたり、調理の先生には食に関わる仕事について詳しく質問したりしていました。
2日間一緒に過ごしますから、現

場に入ってから初めて出てくる疑問もあります。子どもたちは高校生の思い通りには動いてくれないから、「こんなときはどうしたらいいんですか」と職員に聞いてくるんです。
南 それに職員さんが答えるんですね。
阿部（友） そうです。ただ、同じ質問でも職員によって答えが違ってくるんです。それを他の先生が聞いて、「そんな考え方もあるんだ」「それも自分の引き出しに入れよう」となります。高校生に教えているんだけど、実は職員自身のスキルアップにもつながっていました。

高校生から「なぜこの仕事をしているのですか」「仕事で大切にしていることは何ですか」と聞かれると、自分の仕事を改めて振り返りますよね。普段は職員同士でもなかなかそんな話はしませんから、自分の考えを再確認するきっかけになります。受け入れたあとも「高校生、どうだった？」という話題がでてきて、自分たちの仕事の良さを改めて考えたり、「また頑張ろう」と原点に戻る機会になったと思います。
南 高校生のための取り組みだけで

高校1年生なら、まだ特定の会社への
就職を考える段階ではない。
だから「会社とは何か」「大人はなぜ働くのか」
というところから聞けるんですよ。



石内 雅盛 氏

「なぜこの仕事をしているのですか」
「仕事で大切にしていることは何ですか」と
聞かれると、
自分の仕事を改めて振り返りますよね。

阿部 友紀 氏



飲食業から始まり『志』を持って、
農業、福祉サービスへと展開していく
『おなか元氣ぐるーぷ』。
それを引き継ぐ会員の活動の報告です。

おかげさまです思考

一人ひとりの

自己実現に貢献する



おなか元氣居酒屋まんまるの
開店前準備



おなか元氣株式会社
後継者
久留米支部
白仁田 匡輝 氏

取材＝広報情報委員会 文＝菅原弘(東支部) 写真＝長尾裕美(事務局)

おなか元氣ぐるーぷの 歩み

今回のおなか元氣(株)・白
仁田匡輝さんの取材では、
まずグループの歩みを振り
返ってもらいました。

『おなか元氣ぐるーぷ』は
父親・裕二さん(代表取締
役・元久留米支部会員)が
1987年10月に飲食業と
して創業しました。初めは
ホテルの宴会料理を請負
い、その後「居酒屋まんま
る」など最大8店舗ほど広
げていきました。

しかし、ホテル事業の撤
退や福岡県の飲酒運転事
故、繁華街の衰退などのあ
おりを受け事業がままなら
なくなっていました。社
長も様々な手を打ちます
が、長続きしません。目先
にこだわり根本の課題は解
決されませんでした。

そんな時、西日本新聞で
連載された『食卓の向こう
側』(2003年10月)の「医

福祉サービス事業に 展開

ただ、事業は人手不足の
課題に直面しました。引き
こもりの方への支援にも寄
与していた裕二さんは、自
社の課題(人手不足)と障
害者雇用支援(働く場の提
供)を解決するために、就
労継続支援A事業を営む



(株)アスコム(姫島陽介氏・西支部)での受け入れの様子

ンテーションや勉強会が必要です。
石内 学校側にも事情がありますよ
ね。年度が変われば先生も変わりま
す。

増井 担当の先生とのやり取りだけ
では、毎年4月になってから「今年
はどうしますか」となってしまうま
す。学校としては5月に生徒の希望
を聞いて、その時点でやっとわかる
ので、そういった学校側の事情も考
慮しないといけないですね。これは
前年度から学校としてカリキュラム
の中にどう位置付けるのかまで話が
できれば、今後は変わってくるかも
しれません。

阿部(弘) 受入企業側も「インタ
ビューシップをやりたい」と思って
参加することが大切だと実感してい
ます。頼まれたから仕方なく受け入
れる、ではなかなか続きませんよね。
企業にも、この取り組みが自社に
とってどんな意味があるのかを伝え
ていく必要がありますね。

福岡地区らしい 仕組みをどうつくるか

南 来年度に向けて何か考えはあり

ますか？

増井 まずは福岡魁誠高校さんと、
もっと直接会ってじっくり話すこと
だと思っています。メールや電話だけ
ではなく、今後どういう形にしてい
きたいのかを一緒に考える。そのう
えで、福岡魁誠高校さんとの取り組
みを深めて参加する生徒さんを増や
すのか、それとも他の高校にも広げ
るのかを考えていきたいですね。

福岡地区にはたくさんのお客様が
あります。初年度の25人でも、受
入企業の側からすると決して多くは
ありません。仕組みさえできれば、
もっと多くの高校生を受け入れる力
はあると思っています。

石内 ただ、学校を増やすなら、こ
ちらから学校に働きかけていくくら
いの動きも必要でしょうね。そう
なると片手間では難しいです。

増井 だから本格的に取り組んでい
くなら、福岡地区の中に、インタ
ビューシップを継続して担当する専
門チームやプロジェクトのようなも
のが必要だろうと思います。担当者
が変わっても、学校との関係やこれ
までのノウハウが残る仕組みにしな
いといけない。

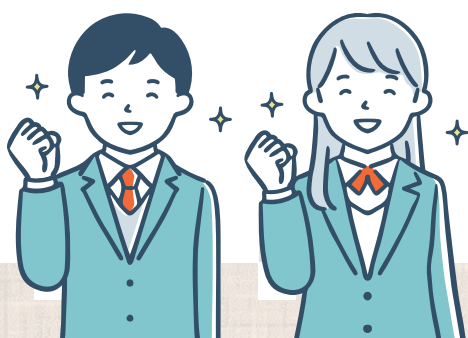
石内 福岡地区はエリアも広いです
からね。一校だけで福岡地区全体を
カバーするのは難しい。地域ごとに
学校と企業がつながる形も、将来的
には考えていく必要があるでしょ
う。

南 課題を聞いていると、なかなか
大変そうですね。

増井 大変ではありますが、まず高
校生のためになります。それだけ
じゃなく、受け入れた社員のため
も、企業のためにもなるのです。2
年間やったからこそ、そこは実感で
きました。これは続けていきたいで
すね。

石内 それぞれの地区によって事情
は違いますが、福岡地区ではしま
たばかりですからね。

増井 そうですね。去年より今年、
今年より来年と、少
しずつ良くしていけ
ばいいです。今は、
その仕組みをつくっ
ていく段階なんだと
思います。
南 お話を聞かせて
いただき、ありがと
うございました。





自然の恵自慢のハンバーグランチ

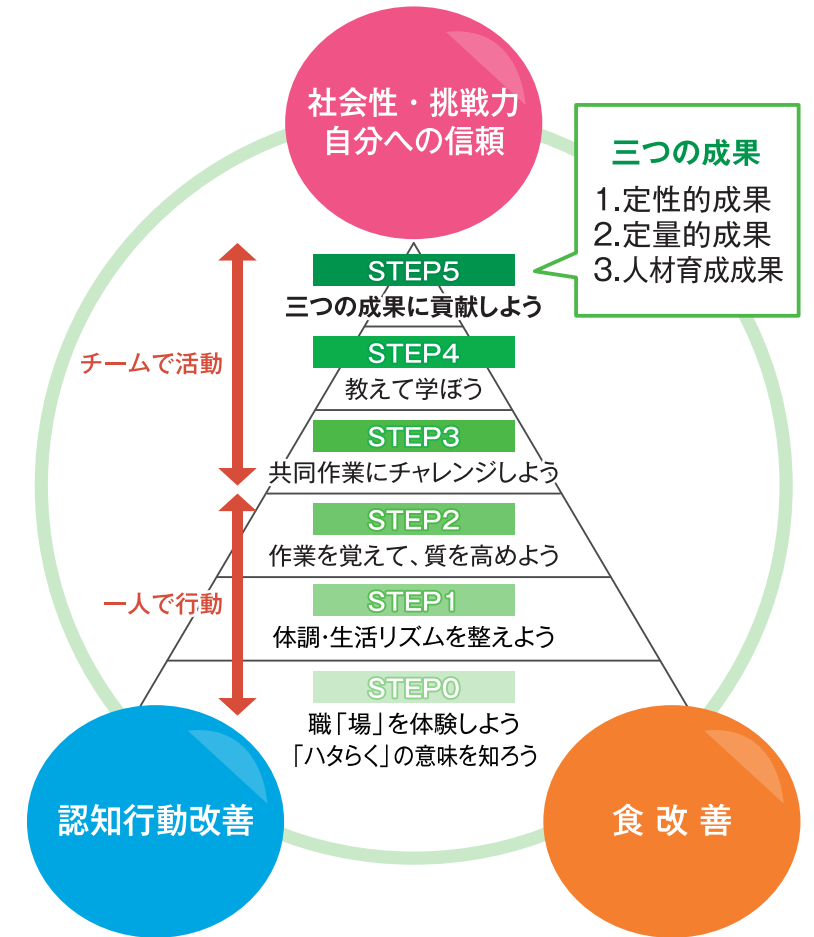


おなか元気レストラン「自然の恵み」

2つの改善&5つのステップ

「おなか元気基準マップ」

おなか元気になる一歩は「おなか元気活動を通して、一人ひとりの自己実現に貢献します」



「一般社団法人 おなか元気村」を創業しました。2013年10月のことです。

A型事業の目的は利用者が社会復帰を目指すための場を作り、教育することです。働く人たち(利用者様)の「社会性・挑戦力・自分への信頼」を確立するために『おなか元気マップ』を

作成しました。「認知行動」と「食」の改善を5つのステップで具体的に進めていきます。

こうして、飲食業から農業、そして福祉サービスと業態は多角化していきました。

「現在では飲食業、福祉サービス業の比率が高まっています」と話します。

このマップは、月5〜6回開催される各種社内勉強会でも使用され、ブラッシュアップされています。

匡輝さんの生い立ち

匡輝さんは1992年、久留米市で生まれます。高校時代の終盤には、精神的に不安定な時期があり不登校にもなりました。

その頃、お世話になった社員の方が急死します。「自分が悩んでいた時期に、父親とは違った角度から、時には見守り、時には叱ってくれた方です。自分もすっかりしなくてはいけないとスイッチが入りました」。

腸は第2の脳

「認知行動」と「食」の改善は密接なつながりがあります。そして現在『新型栄

大学に進みましたが、すぐに中退します。引きこもり状態になりましたが、家の飲食店のバイトをしていました。「やりたいことが見つからなかった」と言います。

父親の勧めで、見聞を広めるために海外を旅しました。当時は日本食がブームだったため、刺激を受けました。日本に戻ってからは、自らの引きこもりの経験も活かして障害者の就業支援事業の手伝いを始めました。

「養失調」が問題となっていました。タンパク質や炭水化物不足となって、筋肉量の低下により基礎代謝が低下。運動しても脂肪が燃えにくくなり、冷えたるさ、片頭痛・気分の落ち込みなどに繋がります。

「玄米など全粒穀物を主食に、季節と土地にあった野菜・小魚や海藻などの海のミネラルを中心として、陰陽のバランスのとれた食事をする」ことが食改善です。引きこもっていた当時の食事はそれとは真逆の食生活でした」と匡輝さんは語ります。

経営理念

経営理念はもともと父親が策定したものがありません。

「おかげさまで思考」

①全体を生かし。部分を生かす

②「無知の知」を知る

③問題は価値を生む源泉である

以前、取材班が社長にインタビューした時のメモがあります。

「これを同友会的に説明します」。

①企業の経営と同友会活動は不離一体

②学び方を学ぶ

③人生はよかった探し、仕事は困った探し

若者に『志』を持てと言います。『志』と夢とは違います。そして『志』と『恩』とはコインの裏表です。『因』と『心』があって『恩』。つまり自分の存在原因は、人様によって生かされています。だから人様に、社会に、その恩に報いて貢献するのが『志』なのです。

父親からの影響

「父は自分に厳しく、売上げが厳しくなっても社員はついてきました。様々な勉強をしていましたが、ドロッカーもその一つです。

私も受け継いで学んでいます。ドロッカーの3原則は次の通りです。

1、それぞれの組織に特有の社会的機構を全うする。本業を通じて社会に「貢献」する。

2、組織に関わる人々が「生産的」に働き、仕事を通じて「自己実現」できるようにする。

3、社会的責任を果たす。同社の理念は『おなか元気活動』を通して、一人ひとりの自己実現に貢献する。この3原則が反映されていることがわかります。自分で取得したものを磨いて、人様のために働くことと言えるでしょうか。

同友会での活動

父親から引き継いで2022年同友会に入会します。支部では「未来塾」の副塾長を務めています。さらにバリアフリー、ソーシャルビジネスなどの委員会や、青年経営者部会に参

おなか元気株式会社

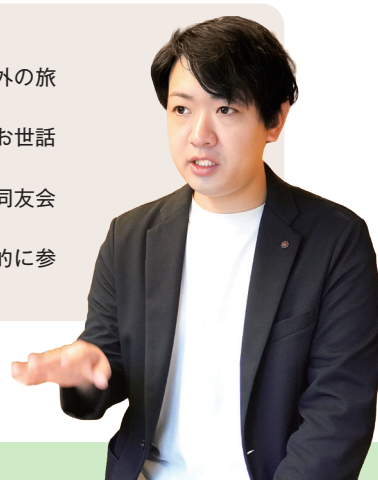
創業 1987年
住所 久留米市六ツ門町17-21
電話 0942-30-3110
社員数 43名(社員13名・パート30名)
事業概要 飲食業、福祉サービス業、農業。
「おなか元気活動」を通して一人ひとりの自己実現に貢献

<https://onaka-genki.com/>



白仁田さんのAction

- ①高校時代終盤からの引きこもりから抜け出し、海外の旅へ。現地の日本食に触れ刺激を受ける。
- ②自身の経験を活かして会社の福祉事業に携わる。お世話になった社員の急死をきっかけにスイッチが入る。
- ③父の影響を受けながら経営学を学ぶ。2022年に同友会入会。
- ④支部の役員や委員会活動、青年経営者部会に積極的に参加。事業承継を見据え、日々成長中。



第8回 経営実態調査報告書 (2026年4月～6月期)

「仕入れ高止まりと、価格競争に伴う利益圧迫の危機

利益を出すための経営戦略を」

調 査 要 領	調 査 時	2026年6月1日～2026年6月30日				
	対 象 企 業	(一社)福岡県中小企業家同友会 全会員企業2,443社 (5月時点)				
回答企業の概要	調 査 の 方 法	e.doyu アンケートによる自計方式				
	回 答 数	610社の回答(回答率25%) (農林水産業9社、製造業60社、建設業98社、小売業35社、卸売業37社、サービス業371社)				
	企 業 規 模	0名……………105社	1名～5名……………196社	6名～20名……………172社		
	(従業員数)	21名～50名……84社	51～100名……………33社	101名以上……………20社		
企業の所在地		福岡地区(市内) 303社	福岡地区(市外) 91社	北九州地区 58社	筑豊地区 77社	県南地区 61社 県外 20社

概 況

回答総数610件

今期業況判断DI(前年同期比)は、前回調査から9.0ポイント低下して「－6.6」となり、3期ぶりにマイナス域へ転じた。また、次期業況判断DI(前期比)も前回調査から6.4ポイント低下し、「15.4」となったことから、先行きについても慎重な見方が広がっている。これらの結果から、今期の県内会員中小企業の景況感は全体として低下したといえる。

一方、売上高DI(前年同期比)は前回調査比で0.5ポイント上昇し、「12.9」とほぼ横ばいで推移した。売上が減少した企業の「売上減少の理由」の最多回答は前回に引き続き「国内需要の減少」で45件(n＝125件)となり、売上減少企業のおよそ3社に1社が要因として挙げられた。また、採算DI(前年同期比)は前回調査から7.2ポイント低下し、「4.1」となった。採算が悪化した134社のうち、6割を超える87社が「売上数量・客数の減少」を主な要因として回答。「原材料・商品仕入額の上昇」が60社で2位となり、「人件費の増加」は53社で続いた。いずれも4期連続で4割近い企業が利益圧迫の要因として挙げており、コスト負担の増加が依然として経営を圧迫している状況がうかがえる。

分析会議においては、売上関連のDIは総じて横ばいで推移している一方、利益関連のDIは低下しており、価格転嫁が十分に進まず、利益を確保しにくい経営環境が続いていると考えられるとされた。

仕入単価DI(前年同期比)は7.2ポイント上昇して「58.7」となり、仕入価格の上昇が引き続き幅広い業種でみられた。また、次期見通しDIも4.8ポイント上昇して「54.7」となり、今後も仕入価格の上昇が続くと予測される。背景には、中東情勢の緊迫化による影響が強まっていることがありとみられる。

人手過不足DIは、「やや不足」と回答した企業が減少したため前回調査比で8.6ポイント上昇し、「－34.5」となった。分析会議では、依然として人手不足感は強いものの、仕事量や受注量の減少が影響している可能性も考

えられる一方で、外国人技能実習生や外国人材の活用などの人材確保手段の多様化が進み、人手不足への対応が徐々に進展している側面もあるとの意見がみられた。経営上の問題点(各社上位3位まで回答)では、1位が「仕入単価の上昇・高止まり」が209件(34.3%)となり、3期連続で回答割合が上昇。次いで2位は「人件費の増加」が152件(25.0%)で、回答割合は前回より低下した。前回4位だった「同業者相互の価格競争」が121件(19.9%)で3位に上がり、「従業員不足」は109件(17.9%)と回答割合が低下した。分析会議では、県内受注量の低下から「自社も他県へ市場開拓を進めている」と同業者相互の価格競争など市場環境の厳しさが増す状況を実感する声が挙げられた。

〔中東情勢緊迫化の影響に関する特別調査〕

中東情勢緊迫化の影響の有無について、「現時点で影響が出ている」と「現時点では影響は無いが、今後は可能性がある」を合わせると67.3%となり、3社に2社の割合で、影響があるもしくはその可能性が生じていることが分かった。これらの回答企業のうち影響内容について尋ねたところ、「原材料・資材価格の上昇」が最も回答が多く、75.9%に上り4社に3社が回答され、エネルギー価格の上昇は30.8%だった。「仕入価格上昇分を価格転嫁できずに利益を圧迫」と利益への影響は、26.5%と4社に1社程度が回答された。「仕入・調達の困難」は168社で44.6%と半数近くを占めた。影響の有無にかかわらず、対応策を尋ねたところ「原材料や部品等の調達先の多様化」が最も多く20.2%と5社に1社となった(その他を除く)。ついで多いのは、コスト削減が122社(15.0%)であり、価格交渉の対応策を行っている、想定している企業は110社(13.5%)を上回った。

※ DI(ディフュージョン・インデックス):企業の業況感や設備、人手過不足などの各種判断を指数化したもので、景気局面などの全体的な変化の方向性や各経済部門への波及度合いを把握できる「拡散指数」です。計算式(百分率表示)DI＝(プラスの構成要素の数(「よい」など)－マイナスの構成要素の数(「悪い」など)) / 構成要素の総数×100

第8回 経営実態調査報告書



特別調査「中東情勢緊迫化に関する影響調査」

1. 中東情勢緊迫化の影響はありますか?(単数回答)

回答項目	回答総数	回答割合
現時点で影響が出ている	243	43.4%
現時点では影響はないが、今後は可能性がある	134	23.9%
現時点ではわからない	131	23.4%
今後も影響はない	52	9.3%
合計	560	100.0%

2. 影響として表れているもの、想定されるものはどのようなものですか?

回答項目	回答総数	回答割合
原材料・資材価格の上昇	286	75.9%
エネルギー価格の上昇	116	30.8%
仕入価格上昇分を価格転嫁できずに利益を圧迫	100	26.5%
物流調達・遅延	109	28.9%
仕入れ・調達の困難	168	44.6%
受注減少・需要減退	63	16.7%
為替変動の影響	19	5.0%
資金繰りのひっ迫	14	3.7%
その他	24	6.4%
合計	899	100.0%

アドバイザーコメント

第8回経営実態調査の調査対象期間となる2026年4月-6月期の社会動向を見ると、中東情勢は依然混迷を極めており、それ起因するナフサショックも社会的不安の払拭には至っておりません。6月には政策金利が1%に引き上げられ31年ぶりの高水準となりましたが、円はドルのみならずあらゆる通貨に対し安くなっています。

今期調査結果において特筆すべきは、回答数が前回から185件と大幅に増加し、自身の景況調査を含めても歴代2位となる610件となったことです。全支部において回答率は10%を超え、なかでも筑豊地区は3支部ともに40%以上を記録しました。毎回支部ごとに増減が入れ替わってきた福岡地区でも今回は全支部が前回より解答数を増やしています。各支部での取り組み、働きかけの足並みが揃いつつあることが、今回の顕著な成果に繋がっています。また目を引くのは若い回答者の増大で、44歳以下の回答比率は前回比+2.4ポイントの27.1%に増えました。

分析に移りますと、前回までの主要指標横ばい基調から顕著な変化がみられました。「今期業況判断DI」は-6.6(前期比+9.0)と大きく下落しました。これは第1回経営実態調査(2024年7～9月期)の-8.2以来の低さであり、前期比5ポイント超の大幅変動は第2回以来となります。コロナ明け以降高止まり傾向にあった「次期業況判断DI」も15.4と前期から-6.5ポイント低下しました。両指標の回答構成を見ますと、今期業況においては前回まで「普通」が大勢を占めていたもの今回は「悪化」の判断が目立つようになり、次期業況においては「よくなる」が前期比-5.3ポイントも減退し「現在と変わらない」が半数以上を占めるようになっています。

業況判断に呼応するかのように採算関連の全指標も悪化しています。「採算(経常利益)DI(前年同期比)」は2025年以降+10近傍で横ばい推移していましたが、今期は-7.2ポイントの4.1に落ち込みました。経常利益の黒字・赤字比率を示す「採算(経常利益)水準DI」は30.2(前期比-8.0)へと落ちました。採算(経常利益)DIの悪化理由には中東情勢、ナフサショックを指摘する意見が多くみられます。

これらに対し売上高関連指標では第2回からの横ばい傾向が継続しています。「売上高DI(前年同期比)」は+0.5ポイントの12.9、「売上高DI(前期比)」は-3.3ポイントの5.7、「売上高次期見通しDI」は変化なし12.0と、変化幅は比較的小規模でした。売上高は前期や前年同期程度は確保できているものの、業況や採算においては顕著に悪化していると判断する回答者が増加しています。市場の需要はあり売上高の現状維持はできるものの、資材全般、人件費の高騰、円安の進展等により採算が取りにくくなり、さらには人手不足や価格競争などに起因とする商機や付加価値創出の機会逸失に業況拡大が阻まれていると推測されます。

仕入単価DIは58.7(+7.2ポイント)と大きく上昇したのに対し、販売・客単価DIは33.1(1.1ポイント)は微増にとどまり、両者のギャップ幅は25.6と第2回以来の拡がりを示し、物資高騰のなか価格転嫁が進まない状況が垣間見られます。一方で「人手過不足DI」は-34.5と前期から8.6ポイント上昇し第4回以来の-30台復帰となりました。この件に関して検討会では、人材獲得・育成の成果というよりは、現状の人員に合わせた仕事請負により不足感が解消しただけではとの指摘もあり、今後も注視が必要です。また、高卒求人に初めて取り組んだり、バイトのマッチングサービスの活用など人材獲得手段の多様化の取り組みに着手したりしているとの意見もいただきました。

今期(2026年4～6月期)の「経営上の問題点」 回答者609件／のべ計1479件	大手企業の進出による競争の激化	27
	新規参入者の増加	55
	同業者相互の価格競争	121
	輸入品による圧迫	15
	AI、ロボット、IoTなどの技術への対応の遅れ	48
	官公需要の停滞	22
	民間需要の停滞	95
	取引先の減少	60
	輸出困難	5
	顧客ニーズ変化への対応やズレ	54
	金利負担の増加	48
	事業資金の借入難	39
	仕入単価の上昇・高止まり	209
	販売先からの値下げ要請	12
	取引先からの取引条件の要請	9
	租税公課(税・社保料・公共料金等)の増加	71
	改正された法律や制度への対応	34
	人件費増加	152
	従業員の不足	109
	熟練技術者の確保難	58
	管理者(マネージャー)・幹部の人材不足	100
	管理費等間接費の増加	27
	協力業者の確保難	35
	その他	74

九州国際大学 現代ビジネス学部 教授 三輪 仁

資金繰りDIは前期比-2.4の1.0とプラス域に留まりました。6月に政策金利引き上げがあったことなども考慮すると下落幅は想定より小幅であったとはいえませんが、さらなる金利引き上げも予測されるほか、クレジットカード決済代行大手の破綻の影響など、今後の窮屈感拡大することが懸念されます。

『経営上の問題点』においては1位2位の順位は変わらなかったものの、トップの「仕入単価の上昇・高止まり」の選択比率は前期から7.2ポイントと大幅に上昇し、2位の「人件費増加」(25.0%)を大きく突き放す形となりました。「仕入単価の上昇・高止まり」は「製造業(70.0%)」「農林水産業(55.6%)」などかつてないレベルの比率となっております。もはや仕入単価上昇や高止まりという段階ではなく、必要資材・原材料の確保に困難を来している回答者が多くなっていることが窺えます。「経営上の力点・課題」については、「自社内・外部環境の現状把握・分析」と「情報力強化」が同数で1位(18.4%)、以下「付加価値の増大」(17%)「経営指針(理念・ビジョン・方針・計画)策定・見直し」(16.2%)と続きました。情報の入手と分析の重要性を感じる回答者が多くなっているのは、VUCA(変動性・不確実性・複雑性・曖昧性)の時代ともいわれる先行きの予測の難しい現代を反映しているとも読めます。今回から「経営者の姿勢の確立」(13.3%)選択者にはその具体的な取り組み内容を自由記述いただきましたが、(社員、同友会などの)コミュニケーション、学び、経営指針などを挙げている回答が目立ちました。

特別調査として行われた「中東情勢緊迫化に関する影響調査」では、中東情勢緊迫化の影響については43.4%が「現時点で影響が出ている」と回答しました。また、「現時点では影響はないが、今後は可能性がある」を選んだ回答者も23.9%に上り、大半が既に影響を受けているか、今後について懸念を抱いていることが示されています。具体的な影響については、「原材料・資材価格の上昇」が75.9%と圧倒的で、以下、「仕入れ・調達の困難」44.6%、「エネルギー価格の上昇」30.8%、「物流調達・遅延」28.9%と続きます。原材料・資材・エネルギーなど必要不可欠なものの価格高騰のみならず、仕入れ調達のマヒなど深刻な影響が広範に拡がっていることが示されました。対応策については、1位が「その他」21.1%で以下、「原材料や部品などの調達先の多様化」20.2%、「コスト削減」15%と続きました。なお「その他」の自由回答には価格転嫁、早期注文、情報収集などの意見が寄せられています。回答からも、試行錯誤を繰り返しながら、ギリギリの対応をなされていることがうかがえます。

今期は数期間続いた各種指標の横ばい状況に大きな変化が生まれ、業況や採算水準におけるマイナス方向への動きが目立ちました。このシフトは、中東情勢緊迫化、中小企業を取り巻く環境の複雑化・不安定化を強く感じるこの時期を反映したのもといえますし、これまでの指標の横ばいの背後で進んでいた二極化がいよいよ数値として顕在化したとも考えられ、今後の進展が注目されます。皆様のご尽力により回答数も大幅に増加し、一つの目標である福岡県内中小企業数の1%に相当する会員回答率50%の実現も一気に現実味を増してきました。今回初めて経営実態調査に回答した会員様も多いと思われます。各種指標のみならず、自由回答に今後のヒントや指針となるコメントが隠されていることもありますので、機会がございましたら隅々まで読んでもらえたらと思います。

大企業にはない魅力★ 誇りをもって伝えていこう！

日時 2026年8月3日(月) 13時30分～17時
場所 リファレンス駅東ビル4階「Q会議室」

報告者



有限会社吉浦ビル
代表取締役
吉浦隆紀氏(南支部)



有限会社吉浦ビル
CEO
森田英介氏(南支部)

福岡大学の学生56名も 交えた勉強会

2010年に閣議決定された中小企業憲章の前文には、「中小企業は、経済を牽引する力であり、社会の主役である。」と謳われています。地域の生活や経済活動を支える中小企業・小規模事業者の存在意義や魅力等に関する正しい理解を広く醸成する機会を国民運動として提供していく取り組みとして、2019年に国は7月20日を「中小企業の日」に、7月を「中小企業魅力発信月間」に制定しました。

福岡同友会では2020年より、この

期間中に会の内外に向けて中小企業の魅力を発信する目的で「中小企業魅力発信月間大勉強会」を毎年開催してきました。今年の大勉強会は、福岡大学商学部の合カ知工教授にご協力いただき、「働く場として、どうすれば地域の人々や若者へ中小企業の魅力を伝えることができるか」について56名の福岡大学の学生さんを迎えて語り合い、中小企業の魅力の再発見と魅力発信に繋がると気づきと学びを深めました。

地域の空き家再生事業に学ぶ

報告は、地域の空き家を再生する事業に取り組み、行政機関やマスコミなどで

その取り組みが取り上げられている、有限会社吉浦ビル 吉浦隆紀氏と森田英介氏(いずれも南支部)に行っていたきました。吉浦さんは2012年、家業である吉浦ビルを引き継がれます。しかし当時引き継がれた吉浦ビルは、最寄り駅から遠く、築40年を超える古いビルで、空室率は20%を超え、家賃滞納が頻発という状況でした。ここで吉浦さんは発想を大転換し、築古でもリノベーションでオンラインワンの部屋にすれば、「このレトロ感がたまらない」と考える層がいるはずだと考えます。

一般的に、賃貸物件は勝手に部屋を扱



座長を務めた新内一秋氏

えません。退去時は現状復旧の義務があり、言わば、仮住まい。しかし、住み手が自分でできるDIYリノベーションとして入居者を募集します。すると、古くとも自分で手を入れた部屋に愛着が湧き、そこに魅力を感じる人たちが集まってきたのです。さらに、吉浦さんは、「コミュニティという、建物じゃないつながり」

が吉浦ビルの売りど位置づけ、地域の魅力を上げようとまちづくり、コミュニティづくりへと事業概念が広がっています。

このころ吉浦さんは、ビルリノベを通

じて、地域を変える取組み「まちづくり」をテーマとして福岡大学ベンチャー起業論に参加され、ここでプロジェクト学生インターンとして現在CEOの森田さんと出会います。学生の森田さんは、プロジェクトを通して事業に魅力を感じ、「この会社の仲間になりたい」と思うようになり、インターンからそのまま吉浦ビルに新卒入社します。森田さんが価値観に合う吉浦さんと一緒に仕事をするという「働く喜び」を感じていたところ、吉浦さんは入社間もない22歳の森田さんをCEOに抜擢し、大牟田市の築古建物の再生とコミュニティづくりというチャレンジの機会を任せ、森田さんはそれに応えま

す。現在、お二人は九州を視野に築古ビル1万戸の再生とネットワークづくりを目指し日々ワクワクしながら事業を進めていると報告があり、会場の共感を呼びました。

会員企業と学生・行政・ 教育関係者でグループ討論

グループ討論では「どうすれば中小企業の魅力を伝えられるでしょうか。何をどのように発信すると良いでしょうか?」というテーマで会員、学生、行政・教育関係の参加者で活発で熱心な討論が各テーブルで交わされ、グループ発表では、多くの福岡大学の学生さんが発表者として出ていただき、積極的で、堂々とした発表に会場は盛り上がりしました。

会員企業から「学生さんが思った以上に中小企業に対して良いイメージを持っているのが印象的だった」「学生は全てが大企業を目指しているのではなく、多くが中小企業への就職も考えていることが分かった。私たち中小企業はもっと誇りを持ってSNS等で学生さんたちへ発信する必要がある」など、自社の魅力をもっと伝える必要との意見があり、学生の皆さんからは、「学生生活で中小企業につい



グループ発表では学生が堂々と発表

て学ぶ機会が無かったが、今回の勉強会で中小企業に対するイメージや考え方が変わった」「大企業にはない魅力が中小企業にはあることを知った。積極的に中小企業のインターンに参加していきたい」などの意見を聞くことができました。

特に「イメージや考え方が変わった」という意見が多かったのが印象的でした。さらに、「またこの様な機会を作っていただきたい」との感想があり、今後継続して、会員企業と学生が等身大で、知合い語り合う場をつつていく必要を強く感じた大勉強会でした。

文：新内一秋(南支部)
写真：玉川伊織(同友会事務局)



会場いっぱいの参加者で、活発に交わされたグループ討論



DIYリノベビルの様子(報告スライドより)



自ら掴みとれ!

中小企業の希望は同友会から生まれる

第32回

福岡県中小企業経営者フォーラム

日時

2026年10月23日【金】 13:00~20:00 / 受付 12:30

交流会 / 18:30~20:00 TKPエルガーラホール 8F

第一部

【基調講演】

会場:TKPエルガーラホール 8F 13:00~14:40

見える未来と見えない未来~時代を読み解き付加価値を高める企業変革~

■ 宮崎 由至 氏

株式会社宮崎本店 代表取締役会長、三重県中小企業家同友会 相談役理事、
中小企業家同友会全国協議会 顧問

【分科会】15:00~18:00

TKPエルガーラホール7FおよびTKPガーデンシティPREMIUM天神スカイホール16F

第1分科会

人を生かす経営推進本部

社員を信頼し、事業が広がる経営とは
~人を生かす経営の総合実践~

■ 権藤 光枝 氏

株式会社Branches
代表取締役
(福博支部)

第2分科会

仕事づくり推進本部

自ら行動し、学び、実践することで
会社が変わる!

■ 栗原 あつし 氏

株式会社クリハラ
代表取締役
(福友和支部)

第4分科会

同友会づくり推進本部

実践なき学びは、会社を変えない。
~不離一体の実践が会社を変える~

■ 北原 正 氏

社会保険労務士法人
COMMITMENT
代表社員(南支部)

第5分科会

フォーラム実行委員会

「聴きだすこと」が企業の発展
につながる

■ 降旗 美香 氏

有限会社 Miyama
コーポレーション
代表取締役
(福友愛支部)

第3分科会

地域づくり推進本部

中小企業と金融機関の新たな関係
~融資と保証から伴走支援による
企業成長~

パネルディスカッション

あなたと共感! ハーモニーバンク
福岡ひびき信用金庫 大牟田柳川信用金庫
JFC 日本政策金融公庫 福岡県信用保証協会

■ 井上 明 氏

富士食品株式会社
代表取締役社長
(東支部)

第6分科会 (見学分科会)

フォーラム実行委員会

強みは変えず、価値を変える
~市場を切り拓く経営実践~

■ 鹿田 和正 氏

株式会社鹿田産業
代表取締役
(福友和支部)

全支部 10月例会は経営者フォーラムに振り替えです

15
木

筑紫支部

「同友会を知る会」

18:30~20:00

吉丁

筑紫野市二日市中央1-8-38

☎ 092-921-3838

■ 徳久 貴士 氏

有限会社文具事務機の大沢 代表取締役(筑紫支部)

■ 川添 良平 氏

株式会社PLUMs 常務取締役(筑紫支部)

16
金

企業連携推進委員会 FAST

FAST10月例会 18:20~20:30

福岡同友会事務局全体会議室

福岡市博多区吉塚本町9-15 福岡県中小企業振興センタービル11F

☎ 092-686-1234

ランチェスター戦略×中小企業 小さな会社が業績を上げる連続セミナー
営業地域戦略:勝てるエリアの決め方

■ 深見 信吾 氏 深見経営株式会社 代表取締役(東支部)

■ 笠置 重子 氏 有限会社タイセイ 代表取締役(博多支部)

19
月

青年支部「同友会を知る会」

19:00~21:00

THE LIVELY 福岡博多

福岡市博多区中洲5丁目2-18

☎ 050-3138-2071

知る・つながる友会

■ 林 亮秀 氏

株式会社ハッピーエステート

代表取締役(青年支部)

■ 桑木野 達哉 氏

HUNTER株式会社 代表取締役社長

(青年支部)

19
月

福友愛支部「同友会を知る会」

18:30~20:10

アクア博多B会議室

福岡市博多区中洲5-3-8

☎ 092-263-4770

■ 小林 理恵 氏

5050maintenance株式会社

代表取締役(福友愛支部)

■ 入江 恵美 氏

株式会社オー・エー企画

代表取締役専務(福友愛支部)

20
火

南支部「同友会を知る会」

18:30~22:00

天神テルラ 7F

福岡市中央区渡辺通5-25-18

☎ 092-732-4441

■ 上野 博実 氏

社会保険労務士法人つくし 代表社員

(南支部)

20
火

田川支部

「同友会を知る会」

18:30~20:30

県立大学大セミナー室

田川市伊田4395

☎ 0947-42-2118

■ 属 紀三嗣 氏

社会福祉法人朝日会 後継者(田川支部)

■ 椿山 勢樹 氏

有限会社松山保険事務所 代表取締役

(田川支部)

フォローアップ部会

22
木新会員フォローアップ
セミナー

18:00~21:00

福岡県中小企業振興センター303

福岡市博多区吉塚本町9-15 3F

☎ 092-686-1234

27
火

博多支部

「同友会を知る会」

18:30~20:00

アクア博多B会議室

福岡市博多区中洲5-3-8

☎ 092-263-4770

■ 井上 真一 氏

株式会社大匠建設 代表取締役

(博多支部)

■ 脇山 さなえ 氏

葉月さな 代表者(博多支部)

2026年度
第4回

理事会議事録

理事会議事録の詳細はe.doyuの
「文書管理」にある「理事会議事録」にてご覧ください。

開催日時 8月26日(水) 14時30分~17時47分

出席数 37名(出席率97.3%)

会 場 福岡県中小企業振興センター401会議室

議 長 久保田 洋

【審議・協議事項】

1 入退会審査

重松副代表理事より入会ならびに退会の提案があった。審議の結果、入会19名、退会11名(うち未収あり退会2名)が承認され、8月承認会員数は2,439名となった。また、移籍1名が確認された。

2 「全体構想」について

「組織」および「活動」工程表について進捗報告があった。「支部役員選考の手引き」については末尾に役員選考規程も併記する。

3 理事会の開催方法について

感染症対策や政府からの要請等があった場合を除き、基本は対面での開催を基本とすることを確認。それを踏まえ、改めて開催方法について議論を行った。今後も適宜議論していく。

4 本年度12月の理事会会場について

12月の理事会を八仙閣で開催し、終了後そのまま懇親会を行うことが提案・承認された。理事同士の関係性を深め、理事会でより活発な議論ができるようにするため実施する。

5 定時総会収支決算書について

2026年度定時総会の決算報告があり、承認された。収入合計5,746,000円、支出合計5,386,632円、収支差額359,368円となった。差額は本会計の総会費に差し入れる。

6 企業づくりより

経営指針の声かけ状況および企業変革支援プログラムVer.2登録状況が共有され、引き続き声かけと促進に取り組むよう呼びかけられた。

7 熊本への支援金について

下記3点が提案・承認された。

①会員から支援金を募集し、8月末を一次締め切りとして振込を行う。

②福岡同友会として100万円の支援金を送る。

③会員及び福岡同友会からの支援金をまとめて中同協の支援金口座に振り込む。

8 地域づくり推進本部より 経営実態調査特別項目について

第9回経営実態調査(2026年7月~9月期)に外国人雇用に関する調査を特別項目として設けることが提案・承認された。

9 総務財政室より 会員基礎情報調査について

会員基礎情報調査の実施と項目について提案があり、意見交換を行った。

あがった意見を踏まえて項目を見直し、改めて提案することとなった。

10 役員選考委員会より

次期の代表理事の選考について、現代表理事である貞兼氏・井上氏両名を次期代表理事に推薦し、今期と同じく代表理事2名体制とすることが提案・承認された。

11 福岡地区より 支部特定活動について

「活動に係る細則」第6条および第7条の見直しについて提案があった。支部総会で承認された支部方針および支部活動費予算に基づき、支部役員会で必要性を確認して実施する活動(納涼・忘年例会、周年行事、地域行事への参加、全国行事への参加促進など)を「支部特定活動」と位置づけ、飲食・レクリエーションを除いた運営経費を支部活動費の予算内で支出できるようにする。提案に対し意見交換を行い、継続協議となった。

【報告事項】

1 総務財政室より

行事参加費等の請求書の電子化を実施する旨報告があった。事務局から配信するメールのURLから手続きが必要になるため、役員会やブロック会等でもご案内いただきたい。

2 会員企業の動き

■ 経営革新計画承認企業

● 2025年7月(県25件/うち同友会会員企業1件)

※累計で福岡県全体では10,369件、会員企業は延べ609件。

株式会社福岡エージェンシー 木寺 慶介 氏(福友愛支部)

<内容>企業案件参画型地域クリエイター育成・協働モデル事業

■ 表彰など

● 福岡市トライアル優良商品認定事業

株式会社pono 牛島 智絵 氏(福友愛支部)

■ 報道記事など

● 2026年7月26日RKBテレビ「継住開来」出演

株式会社pono 牛島 智絵 氏(福友愛支部)

● 2026年8月4日「日本経済新聞」掲載

一番食品株式会社 有吉 崇 氏(飯塚支部)

● 2026年7月号「ビジネス」掲載

合資会社こちら総務部 四ヶ所 十郎 氏(有明支部)



月刊
同友

10
月号

2026
vol.723

会員
トピックス



今回のすばるクラブは、7月7日に、グリルピア・ヨドバシ博多店で開催しました。当日は、「ベテラン会員（レジェンド）」だけでなく、ご家族、OB・OGの皆さんにもご参加いただき、総勢40名が集まりました。普段の例会や行事とは少し趣向を変え、今回は肩の力を抜いて、みんなで食べて、飲んで、笑って、親睦を深める楽しい交流の場となりました。

会場では、久しぶりに顔を合わせるOB・OGの姿もあり、「お久しぶりです!」「元気だった?」と、あちらこちらで懐かしい再会を喜ぶ声が聞かれました。また、これまであまりお話しする機会のなかった方同士が自然に会話を始めたり、新しい出会いが生まれたり、BBQならではの和やかな雰囲気の中で、会員同士の距離もぐっと近くなったように感じます。そして、今回とても嬉しいニュースもありました。

この交流会にゲストとして参加された西屋さんが、なんと、この会をきっかけに新会員として仲間に加わってくださることになりました。楽しい時間を共有することが、新しい仲間とのつながりにつながったことは、今回のBBQ大会の大きな収穫の一つです。

さらに、会の途中では歴代の支部長経験者の皆さんから、すばるクラブへの熱い思いや、これからの活動に向けたメッセージも語られました。先輩方からの言葉に耳を傾けながら、これまで築いてきた仲

南支部すばるクラブ

「家族と仲間で楽しむ 夏の夕べ!」 納涼BBQ大会

文・写真:南支部すばるクラブ

代表世話人:水上 徹也 世話人:川原 和代



間とのつながりや、すばるクラブの歴史を改めて感じるひとときとなり、会場は一気に盛り上がりしました。

暑い暑い夏の日でしたが、みんなで囲むBBQのお肉は格別!冷たいドリンクを片手に、笑顔と会話が途切れることはありませんでした。仕事の忙しさをしばし忘れ、仲間と楽しい時間を過ごすことで、心もお腹も満たされ、これからの活動に向けてしっかりと英気を養うことができました。

今回の納涼BBQ大会を通じて、改めて「人と人とのつながり」の大切さを感じることができました。ご参加いただいた皆さん、本当にありがとうございました。これからも、会員同士はもちろん、OB・OGやご家族、そして新しく仲間になってくださる方々とのご縁を大切にしながら、楽しく、元気に、すばるクラブを盛り上げていきましょう!

2026年10月1日発行 (毎月1回・1日発行)

福岡同友会

<https://www.fukuoka.doyu.jp/>

アンケートにご協力ください 回答締切 10月30日(水)

月刊同友では、皆様からのご意見・ご要望を募集しています。

よろしければQRコードからアンケートにお答えください。(所要時間 4分)



一般社団法人 福岡県中小企業家同友会

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町9番15号
福岡県中小企業振興センタービル11階
TEL:092-686-1234 FAX:092-686-1230

北九州地区センター

〒802-0001 北九州市小倉北区浅野1-2-39
クルーズ浅野ビル808号
TEL:093-551-3111 FAX:093-551-3344

県南地区センター

〒830-0038 久留米市西町1367-1
祥栄ビル2階
TEL:0942-33-3355 FAX:0942-33-3366